

「話し合い」活動を通して課題解決力を高める指導法の研究

—話し合うことの良さを実感する場をめざして—

浜岡 恵子・山元 隆春*

要約：本研究は、「話し合い」活動を取り入れることで、課題解決力を高めようとするものである。ここでいう「話し合い」では、特にメンバーの一人ひとりが「話す」内容を持っていることを重視し、班ごとに設定した観点について担当を決め、各自がその情報を収集する段階を「話し合い」の前に設定した。このことによつて、メンバーが互いの情報を大切にしながら話し合いを進めることにつながった。その結果、学習課題を解決するために「話し合い」が重要であるという意識をもつ生徒が学習前に比べて増加する結果を得ることができた。

キーワード：話し合い、課題解決力、協働的問題解決

I. 研究の経緯

子どもたちの現在・将来にある課題は、さまざまなもので、大人たちが自身の経験で予測できる範囲に止まらない。とすると、学校教育においても、生徒自身が課題解決のために、既に習得した知識や技能に加えて、必要な情報を収集し、多角的な観点から解決の方法を思考したり、実践したりするために仲間と協働する力の育成が求められる。生徒は集団生活の中で教科や総合的な学習の時間を中心に、すでに多くのグループ学習を体験している。ほとんどの生徒は、グループで活動する楽しさや良さを味わっていることだろう。しかし、グループで学習することの良さをどこに感じているかといえ、必ずしも教師が意図したものとは一致していない。今年度、本校第3学年生徒を対象にしてグループでの学習に対する意識調査（2015年9月80名実施）を行った。

「話し合いをしてよかったと感じた経験があるか」の質問に肯定的に答えた生徒は、実に88%にもものぼった。しかし、「自分の意見をもって、話し合いに臨んでいるか。」という質問には、「いつもそうしている」と答えた生徒は42%であり、グループの中心となる生徒の意見に頼っている様子がしばしば見られる実態と一致する。国語科の授業において、グ

ループでの活動を取り入れる際、そのほとんどが「話し合う」場であると言っても過言ではない。隣同士で行うペア・トークから学級全体での討議まで、学習段階に応じていろいろなグループを組む場合があるが、教師が期待するのは他者と協働することを通して、さまざまな角度からの視点を獲得することであり、自己認識が深まっていくことであろう。しかしながら、実際の教室で行われる「話し合い」は、それぞれが意見を出し合うだけで、結論はグループメンバーの意見から選択したり、迎合したりする段階に止まってしまい、自己認識の深化にはつながっていない実態もある。学校生活の中で互いの関わりが密になるにつれて、生徒間での優劣を自分自身で判断し、メンバーに依存しようとする生徒もいる。この関係は固定的ではないが、課題が難しいものであったり、自分の意見を十分に醸成する時間を持てなかったりした場合はこの傾向が強まる。いったいこれは、どこに原因があるのだろうか。大槻は「話し合い成立の条件」として次の4つを挙げている。（『国語教育研究』498集、2013.）

- (1) 話し合いのメンバー全員が話し合うことのよさを体験していること。
- (2) 話し合いのメンバーの誰もが「話す」内容を

*広島大学大学院教育学研究科

持っていること。

(3) 話し合いのメンバーの誰もが話し合う能力を持っていること。

(4) 話し合いのメンバーが相互の「優劣」を忘れた状態に在ること。

これらはいずれも大切なことであるにもかかわらず、国語科で育成するのは上述の(3)に重点がおかれることが多い。それは、教師自身が「話し合う能力」を育成することによって、その他は付随してくるものと考えているからではないだろうか。教師から「話し合いなさい」と指示されて受動的に行うのではなく、生徒自身が課題を解決するために他の人と「話し合いたい」と能動的に行う姿を理想とするのであれば、学習の中に(1)～(4)をバランス良く仕組んでいくことが重要になってくると考える。

II. 研究の目的

生徒が話し合うことの良さを実感する場には、次の2つが考えられる。1つ目は、グループで話し合う場そのものである。同じテーマについて、互いの意見を安心して出し合うことで、話し合いが盛り上がったことにおもしろ味を感じることができる。たとえば、結論としてまとまったものにならなくても、各自がもつ価値観を交換し合うことが大切なことである。2つ目は、話し合った後で「新しいアイデアが生まれた」や「意見や考えが確かに深まっている」といった話し合ったことによる自分自身の変容を認識する場である。これは、単に友達から新しいことを教えてもらったということではなく、それまでとは別の観点から課題を見つめ直すことにより、自分自身が課題解決につながる気づきを得るということである。このような体験を積み重ねることにより、生徒自身の学ぶ意欲を高め、より深い理解へと導くのではないかと考える。

そこで、今回の研究では、「話し合い」活動において、生徒が話し合うことの良さをどのように感じたかということと理解の深まりにどのような変容が見られるのかを授業の実践記録から検証していく。

III. 授業実践

1 単元について

今回の学習課題は、第3学年生徒全員が修学旅行(今年度は7月に実施)という共通の体験をもっていることを重視し、来年度の修学旅行Task TripでのTask(課題)案を作成し、2年生に贈ることとした。Task Tripとは、本校修学旅行で実施している京都班別学習のことで、与えられたTaskを時間内に達成できるようグループで行程、安全を考えて活動するものである。Taskは、歴史・文学・暮らし等のさまざまなジャンルにわたるが、いずれも現地に行つてこそわかる内容にしている。Task案の作成は例年教師が行ってきたが、Taskを達成する楽しさや意義を高めるために、生徒ならではの視点が活かせるのではないかと考え、今回の学習を設定した。行程面では、今年度の修学旅行での体験を基にすること、内容面では、三年間の国語科学習を振り返らせることでTaskのアイデアを生み出せるようにする。さらに、Task案を作成するメンバーで「時間」や「予算」といった観点ごとに担当を決め、担当者は必要な情報をメンバーに示すことができるようにする。こうした手立てを行うことで、大槻の言う「(2)誰もが『話す』内容をもっていること」や「(4)相互の『優劣』を忘れた状態」を作り、協働的に学習を進めていくことができるのではないかと考える。仲間との話し合いを通してTask案を作成する達成感と、後輩の学習に貢献する充実感を味わわせた。

2 研究方法について

本校3学年2クラス(80名)を対象として、次の二点について考察する。

- ①学習課題を達成するために、「話し合う」ことがどのように活かされたか、完成したTaskから考察する。
- ②今回の学習での「話し合い」についてどのような感想をもったか、学習の振り返りから考察する。

3 実施期間

平成27年11月中旬～11月下旬

4 指導計画

- (1) 修学旅行でのTask Tripを振り返るとともに、これまでの国語科学習を振り返り、京都に関連することを見つける …………… 3時間
- (2) 後輩たちに贈る修学旅行のTask案を作成する …………… 3時間

	学習活動と内容	指導上の留意点
第1時 ～第3時	□修学旅行でのTask Tripを想起する。 (Taskの内容, 感想, 意義等)	○Task Tripの感想を率直に述べ合い, 今回の学習意欲を十分に高めておく。 ○特に今年度はどのようにTaskを作成したかを話す中で, Task案を作成する上での条件を決める。 ○自分達の体験を基に, Task Tripでどのようなことを学習して欲しいか, 後輩への願いをリストアップさせる。 ○後輩(2年生)にもTask Tripへの希望を調査し, Taskを考える際の情報の1つとして示す。
第4時 ～第6時	□これまで国語科で学習したことから, 京都に関連するものを見つけてTaskのアイデアを出し合う。 □来年度の修学旅行が, 後輩達にとってより意義深いものにするためにTask案を作成する。	○1年生からの国語科の学習を想起し, 京都にゆかりのある事柄を例示することで, Taskのアイデアが出やすいようにする。 ○現地で体験する価値があるものかどうか, 自分達で評価させる。 ○4人グループでTaskを1つ作成させる。 ○Task作成にあたり, 班で大切にしたいポイントを4つ(「時間・安全」, 「楽しさ」, 「予算」等)決め, メンバーが各自1つずつ担当して情報を収集できるようにする。これに「学習の意義」を加えた5つのポイントを評価の観点として, レーダーチャートを作成させる。 ○完成したTaskは原案からどのように変えたのか振り返りをさせる。

IV. 結果と考察

今回作成した「後輩へ贈るTask」が, 話し合いの前後でどのように変化したかを, 具体的な成果物で示す。

○A班(1組)

〔原案〕

梶井基次郎『檸檬』の舞台になった寺町通りの果物屋と本屋を訪ねる。

〔話し合いの内容〕

- ・『檸檬』の本の表紙は見せた方が, Taskとのつながりを感じる。しかし, 店は商店街の人に聞きながら探した方が宝探し気分を楽しめる。
- ・作品の舞台に行くことができるので, 情景が想像しやすくなるし, 主人公と同じ行動をすることで, 作品の世界に入り込んだ気分になれる。
- ・ヒントをどの程度入れるかが結構大切。ヒントは必要だが, ヒントを多く出さない方が班員が協力

したり、商店街の人に聞いたりしなくてはいけなくなるので良い。

- ・商店街やお店の中なので、天候に左右されないのが良い。

〔完成プラン〕

〔『檸檬』の表紙と本文を渡す〕

寺町通りに行き、主人公と同じ店を訪ねる。訪ねた店の前で写真を撮る。できれば、この作品にまつわる話をインタビューする。（お店の人の許可を得ること）

○B班（2組）

〔原案〕

〔『平家物語』に出てくる三十三間堂に行って、みんなで写真を撮ってくる。〕

〔話し合いの内容〕

- ・行き先を言わずに、『平家物語』の本文を読んだ後に、行き先がわかるようにした方がおもしろいんじゃないか。古文を読むのは難しいけどその方が有意義なTaskになる。
- ・京都駅から近いので時間や安全面は問題ない。その分、古文を読み取るのが難しくてもいいのではないか。
- ・行き先が分からない時は、京都の町の人に尋ねることもできる。
- ・三十三間堂にある仏像の中から、自分達に似ている仏像を探すことにしたら、班員が協力して楽しめる。

〔完成プラン〕

〔『平家物語』本文を渡す〕

この文章に出てくる場所に行きなさい。そこで自分達に似ている仏像を見つけること。

○C班（2組）

〔原案〕

〔『源氏物語』や『枕草子』に関係ある神社を探して、写真を撮ってくる。〕

〔話し合いの内容〕

- ・『源氏物語』や『枕草子』に関係ある神社は、たくさんありすぎて行き先が絞りがきれない。関係があればどこでも良いとすると、遠くに行ってしまう時間までに戻ってこれなくなるかもしれない。

い。

- ・「上賀茂神社」を答えにしたいが、ゆかりのある作品もたくさんあるので答えに迷うかもしれない。選択肢をつければ、人に尋ねる時も聞きやすくなるので良い。
- ・選ぶ答えは1つじゃない方がおもしろくなる。選ぶのに迷うものと絶対違うというものを混ぜておくと班員が考える時も盛り上がる。

〔完成プラン〕

上賀茂神社に行き、関係のある文学作品を次から選べ。

- a 『平家物語』
- b 『源氏物語』
- c 『枕草子』
- d 『小倉百人一首』
- e 『ナルニア物語』

今回の話し合いでは、班ごとに「時間・安全」「楽しさ」「学習の意義」「難易度」「協力」「予算」等、Task作成において大切にしたいと思う観点を決めた後、一人一つの観点を担当し、必要な情報を収集している。（図1）



図1 話し合いの様子

前述A～C班のTaskの変容をみると、話し合いを経ることによって、さまざまな観点から意見が出され、改善されていることが見て取れた。このことは、各自が担当した観点について情報をもっていることで、メンバー全員が「話すべき内容をもった」状態であったと言える。さらに、話し合いの中で自分たちのTask Trip体験に照らした意見が交わされており、自分たちの体験が1つの尺度となって修正が行われていた。

これも、「話すべき内容をもって」話し合いに参加することにつながっている。

次に、今回の学習での「話し合い」について、生徒はどのような感想をもったのか、学習の振り返りからピックアップする。

- 話し合うことによってたくさんの意見が出て、Taskがより良いものになっていくのが見え、楽しかった。(女子)
- 自分一人でTaskを考えるよりも、他の人の意見を聞いて今まで思いつかなかったことに気付いた。(女子)
- タスク案を協力して作る時、班の人のいろいろな意見や考えを聞けてかなり楽しかったです。(男子)
- (自分が担当した観点について)スペシャリストとしてしっかり意見を言うことができた。(男子)
- 自分の担当した観点の情報を多く集めておくことで、話し合いの時に対応できることがあった。(男子)
- 自分たちで実際にタスクを考えるのは、簡単なようで意外に難しかった。でも、話し合いを通じていろいろな発見があった。とても面白い企画だと思う。(女子)
- レーダーチャートにしてみるとTaskの欠点が一目瞭然になり改善しやすかった。グループで話し合うことにより、自分は持っていなかった意見や考えを聞いたり、自分の考えを示したりすることは班の考えを深め、より良いTaskづくりにつながるということが分かった。(女子)
- 自分たちのTask Tripを活かし、実際に良かったところ困ったことなどを班員同士で話し合うことが大切だと分かった。また、それぞれ責任を持って分担したことを調べることで効率よくでき、より良い案を出すことができた。(女子)

「話し合い」に対する生徒の意識が、今回の学習前後でどのような変化があったかを調査した。

〔質問〕

- ①話し合いをしてよかったと感じた経験があるか。
- ②自分の意見をもって、話し合いに臨んでいるか。
- ③話し合いから自分の考えを広げることができているか。
- ④課題の解決に向けて互いの考えを活かし合うことができているか。

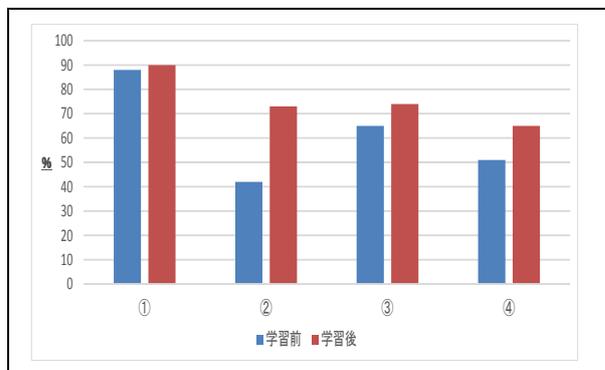


表1 「話し合い」についての意識調査

表1の通り、学習後はいずれの質問についても「大変そう思う」「そう思う」を合わせた肯定的な回答が増えており、前述の振り返りと合わせて、生徒が今回の学習が学習課題の達成に、班の仲間と「話し合い」活動が重要だったと認識していることがわかる。質問①については、学習前から肯定的な回答が多く、学習後も90%とほぼ同じであったが、質問②「自分の意見をもって、話し合いに臨んでいるか」については、学習前に42%であったものが学習後は73%と意識に大きな違いが見られる。これは、班の中で観点ごとに担当として情報を収集したことが大きく影響していると考えられる。この質問に「そう思わない」と答えた生徒も「もっと情報をしっかり集めておけば良かった」との記述もあり、自分の意見をもっておくことの大切さを感じたようであった。質問③「話し合いから自分の考えを広げることができているか」、質問④「課題の解決に向けて互いの考えを活かし合うことができているか」についても、肯定的な回答が増えている。振り返りの記述や授業での観察で、Task作成のために互いがしっかりと意見を出し合う様子を見取ることができた。中には意見がまとまらず議論が白熱した班もあったが、それも普段の話し合いではなかなか見られない光景であり、今回の学習を設定した目的の一つが達成されたと言える。

VI. 終わりに

今回の指導を通じて、やはり学習課題の設定がいかに重要かということであらためて認識した。教師が「話し合いなさい」と指示すれば、生徒は話をし一つ一つの結論を出そうとするだろう。しかし、大切にしたいことは答えを出させることよりも、仲間と話し合ったことが課題を解決するために有効にはたらいた実感をもたせることであった。

また、今回の学習ではTaskを作成する時、「後輩に贈る」ことを常に意識している様子が見られた。

「(後輩にとって) 難し過ぎるんじゃない?」「こうした方がもっと楽しいよ」という発言は、話し合いの中でよく聞かれた。さらに、学習後の振り返りの中で「自分たちの経験や思いを後輩に伝えられてうれしかった」という意見もあった。相手の立場に立って考えることは、コミュニケーション力を伸張するうえで重要なことである。Taskを作成した班のメ

ンバーとだけでなく、後輩とつながる意識を育むことができたのもうれしいことであった。

今回の研究では、「話し合い」活動を経て、どのように変容したかということは明らかにできたが、「話し合い」そのものをどのように評価するかということについて明確にできていない。次年度に向けての課題としたい。

引用・参考文献

大槻和夫「人と人をつなぐ学習ー話し合い学習を中心にー」. 国語教育研究 498 集. 2013.

中岡知佐「論理的思考力を鍛えるー議論を活性化させる魅力的な教材を用いた実践からー」. 国語教育研究 505 集. 2014.

田村学『授業を磨く』東洋館出版社. 2015.

Enhancing Students' Collaborative Problem-Solving Competency through Discussion Activities -Students Experiencing the Merits of Discussion

Keiko HAMAOKA and Takaharu YAMAMOTO

This study aimed to enhance students' collaborative problem-solving competency through discussion activities. In the discussion, one of the members of a group had to present information about a topic to the others. Each participant had to present a viewpoint for discussion, which was set by the instructor. All the participants had the opportunity to obtain information about the subject beforehand. With this activity, every student had to deal with the information collected by the other group members. The result was that students were able to achieve a greater understanding of the role of discussion in solving problems or dealing with tasks.

Key words: discussion, problem solving competency, collaborative problem solving